

## 新世代に伝えたいこと

堺泉北 黒田 一郎

『ロータリーの友』一九九七年三月号で「新世代に対してロータリーはいかに接したらよいのか」という座談会がありました。その中で、IACの地区大会では国旗を掲げ、「君が代」を斉唱することを拒否された、教職員組合の方針で歌わせていない、若者が国を意識するのはパスポートを使うときだけ、という記事が出ています。ロータリーマーク、ロータリーソングを否定する人はロータリーアンではありません。国旗、国歌を否定すればどうなるか。

また、私どものクラブが開いた新世代会議で、日本の学生は、学費、生活費は親の丸抱え、遊ぶ金だけをアルバイトで稼ぐとっています。アメリカの留学生は、二〇歳を過ぎればだれでも自立します。当然、学費、生活費は自分で稼ぐとっています。

アメリカの若者が常識としている自立心、国家観がなぜ日本の若者に欠落したか。民族と国家を分けて考えるのが世界の常識です。アメリカ人になりたいと願う多くの民族が集まり、アメリカをつくりました。つまり、アメリカ人になりたいという願望があったから、愛国心が強いのです。

アメリカでは、子供の教育に次の三つを大切にしています。

(ア)ステーツ——国家に対する義務を教えます。  
(イ)ワーク——ワークを無償と有償に分けて教えます。無償のワークがロータリー精神に発展します。ボランティアを、ソーシャルセキユリティー（平時の社会奉仕）とナショナルセキユリティー（有事の国防）に分け、社会奉仕と国防を同じレベルで考えることを教えます。そして、有償のワーク（お手伝いで小遣いをいただく）で経済観念と労働の喜びを教えます。(ウ)スタディー——最後に初めて勉強です。

日本は(ア)を飛ばして(ウ)だけを教えます。戦前は日本もアメリカと同じく(ア)(イ)(ウ)の順で教えていました。戦後は大人が意識して(ア)(イ)から遠ざかったのです。

IAC、RAC、ライラのプログラムに、自立心、愛国心を組み入れれば、アメリカと同じように、すばらしい成果が期待できます。

幕末、イギリスは長州藩に対し、下関に租借地を要求しました。高杉晋作は三〇歳に満たない若さで、クーパー提督とわたり合って、下関の香港化を防ぎました。明治維新のヒーローはみんな三〇歳までの新世代です。

われわれロータリーアンには、奉仕の精神、ロータリーの心と同じレベルで、自立心、健全な愛国心を新世代に伝える大切な責任があると思います。